

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年11月10日(2005.11.10)

【公表番号】特表2001-520664(P2001-520664A)

【公表日】平成13年10月30日(2001.10.30)

【出願番号】特願平10-544902

【国際特許分類第7版】

C 0 7 C 231/02

C 0 7 C 233/36

【F I】

C 0 7 C 231/02

C 0 7 C 233/36

【手続補正書】

【提出日】平成17年3月22日(2005.3.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成17年3月22日

特許庁長官 小川 洋 殿



1. 事件の表示

平成10年特許願第544902号

~~PCT/EP98/01781~~

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 オランダ国, 6824 ビーエム アンヘム,
フェルペルウエヒ 76

名称 アクゾ ノーベル ナムローゼ フェンノートシャップ



3. 代理人

〒105-0003

住所 東京都港区西新橋 2-19-2. 西新橋YSビル3階

電話 03 (5401) 2521

氏名 (8554) 弁理士 松井 光夫



4. 補正により増加する請求項の数 なし
5. 補正対象書類名 特許法第184条の5第1項の規定による書面
6. 補正対象項目名 (1) 特許請求の範囲
(2) 明細書

7. 補正の内容

- (1) 特許請求の範囲を別紙の通り訂正する。
- (2) 明細書第4頁第8行の「約0 p s i ~ 約125 p s i」を「約0
パール (0 p s i) ~ 約8.62パール (125 p s i)」と訂正する。



(3) 明細書第4頁第9行の「約90 p s i ~ 約105 p s i」を「約6.21バール(90 p s i) ~ 約7.24バール(105 p s i)」と訂正する。

(4) 明細書第4頁第12行の「約105 p s i」を「約7.24バール(105 p s i)」と訂正する。

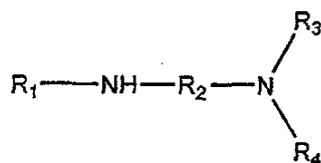
(5) 明細書第9頁第8~9行の「約80 p s i」を「約5.52バール(80 p s i)」と訂正する。

(6) 明細書第9頁下から第2行の「約75 p s i g」を「約5.17バール(75 p s i g)」と訂正する。

請求の範囲

1. a) カルボン酸を反応容器中で、200℃より低い沸点を有するアミンと、0.8:1~1.2:1のモル比で一緒にする工程、
b) 大気圧より大きい圧力下でカルボン酸とアミンとを反応させる工程、
c) 反応容器中の圧力を低下させる工程、および
d) カルボン酸アミドを回収する工程
を含む方法、ただし、該方法で生じた水はセラミック膜による除去をされない。
2. 工程 a) 中で、カルボン酸とアミンとのモル比が 0.9:1~1.1:1 の範囲である、請求項 1 に記載の方法。
3. 工程 a) において、化学量論量より 5%過剰未満 のアミンが使用される、請求項 1 に記載の方法。
4. カルボン酸が式 $RCOOH$ を有し、ここで R は脂肪族または芳香族基である、請求項 1 に記載の方法。
5. カルボン酸が式 $RCOOH$ を有し、ここで R は飽和または不飽和の脂肪族基である、請求項 1 に記載の方法。
6. カルボン酸が式 $RCOOH$ を有し、ここで R は C 7 ~ C 21 の、分岐または直鎖の、飽和または不飽和の脂肪族基から成る群から選択される、請求項 1 に記載の方法。
7. カルボン酸が、植物および動物に基づく脂肪酸から成る群から選択される、請求項 1 に記載の方法。
8. カルボン酸が、デカン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、オレイン酸、エルカ酸、ベヘン酸、ココナツ酸およびタロー酸から成る群から選択される、請求項 1 に記載の方法。
9. 工程 b) が 8.62 バール (125 psi) までの圧力で行われる、請求項 1 に記載の方法。
10. 工程 b) が 6.21 バール (90 psi) ~ 7.24 バール (105 psi) の範囲の圧力で行われる、請求項 1 に記載の方法。

1 1. アミンが式：



[式中、 R_1 は水素、アルキルまたはアルケニルであり； R_2 は炭素数8までの架橋基であり、所望によりヘテロ原子またはカルボニル基またはそれらの組み合わせによって置換されていてもよく； R_3 および R_4 は同一でも異なってもよく、水素およびC1～C6アルキルから成る群から個々に選択される。]を有する、請求項1に記載の方法。

1 2. アミンがジメチルアミノプロピルアミンである、請求項1に記載の方法。

1 3. 工程a)が漂白剤の存在下で行われる、請求項1に記載の方法。

1 4. 漂白剤が次亜リン酸である、請求項13に記載の方法。

1 5. (a) カルボン酸を反応容器中、大気圧および 130℃～150℃の範囲の温度でアミンと 1：1.05～1：1.50のモル比で反応させる工程、

(b) 150℃より高い温度で反応を続ける工程、

(c) 過剰のアミンおよび水を留去する工程、

(d) カルボン酸アミドを回収する工程、および

(e) 次の反応に使用するために、水および過剰のアミンを反応容器に戻して再循環させる工程

を含む方法。

1 6. 工程a)中で、使用されるアミンの量が 10モル%～40モル%過剰の範囲である、請求項15に記載の方法。

1 7. カルボン酸が式 RCOOH を有し、ここでRは脂肪族または芳香族基である、請求項15に記載の方法。

1 8. カルボン酸が式 RCOOH を有し、ここでRは飽和または不飽和

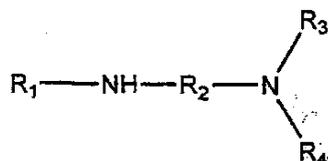
の脂肪族基である、請求項 15 に記載の方法。

19. カルボン酸が式 RCOOH を有し、ここで R は C7～C21 の、分岐または直鎖の、飽和または不飽和の脂肪族基から成る群から選択される、請求項 15 に記載の方法。

20. カルボン酸が、植物および動物に基づく脂肪酸から成る群から選択される、請求項 15 に記載の方法。

21. カルボン酸が、デカン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、オレイン酸、エルカ酸、ベヘン酸、ココナツ酸およびタロー酸から成る群から選択される、請求項 15 に記載の方法。

22. アミンが式：



[式中、 R_1 は水素、アルキルまたはアルケニルであり；

R_2 は炭素数 8 までの架橋基であり、所望によりヘテロ原子またはカルボニル基またはそれらの組み合わせによって置換されていてもよく； R_3 および R_4 は同一でも異なってもよく、水素および C1～C6 アルキルから成る群から個々に選択される。] を有する、請求項 15 に記載の方法。

23. アミンがジメチルアミノプロピルアミンである、請求項 15 に記載の方法。

24. 工程 (b) が、残留遊離酸の量が出発量の 3% 未満になるまで続けられる、請求項 15 に記載の方法。

25. 工程 a) が漂白剤の存在下で行われる、請求項 15 に記載の方法。

26. 漂白剤が次亜リン酸である、請求項 25 に記載の方法。

27. e) 酸化防止剤から成る群から選択される有効量の臭い安定剤をカルボン酸アミドに添加する工程

をさらに含む、請求項 1 または 1 5 に記載の方法。

2 8. 工程 e) が 50~5000 ppm の臭い安定剤を添加することを含む、請求項 2 7 に記載の方法。

2 9. 工程 e) が 500~1500 ppm の臭い安定剤を添加することを含む、請求項 2 7 に記載の方法。

3 0. 工程 e) が BHT をカルボン酸アミドに添加することを含む、請求項 2 7 に記載の方法。

3 1. 工程 e) が BHA をカルボン酸アミドに添加することを含む、請求項 2 8 に記載の方法。

3 2. カルボン酸が飽和カルボン酸であり、かつ回収されたカルボン酸アミドを酸化防止剤から成る群から選択される有効量の臭い安定剤と一緒にする工程をさらに含む、請求項 1 または 1 5 に記載の方法。

3 3. 工程 b) が 50~5000 ppm の臭い安定剤をカルボン酸アミドと一緒にすることを含む、請求項 3 2 に記載の方法。

3 4. 工程 b) が 500~1500 ppm の臭い安定剤をカルボン酸アミドと一緒にすることを含む、請求項 3 3 に記載の方法。

3 5. 工程 b) が BHT をカルボン酸アミドと一緒にすることを含む、請求項 3 2 に記載の方法。

3 6. 工程 b) が BHA をカルボン酸アミドと一緒にすることを含む、請求項 3 2 に記載の方法。